

平成 30 年度

卒業式

宮城県塩釜高等学校 総務部

3月1日（金）宮城県塩釜高等学校の卒業式が挙行されました。統合されて9回目となる卒業式は、本校PTA会長 尾形康雄 様・同窓会長 菊地忠夫 様を始め、塩竈市教育委員会教育長 高橋睦麿 様他、多くのご来賓をお迎えし粛々と執り行われました。竹内 透 校長は、吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』をもとに式辞を述べられました。

<校長式辞より>

昭和 12 年 日本と中国の戦争が始まった年、何事にも軍事色が強まり思想や国民生活が厳しく統制された時代にあつて、この本は子供達に「どう生きるか」を問いかけました。

国のために個人を犠牲にすることが求められた時代、ヒューマニズムを主張することは勇気のいることでした。困難な中にあつても良心を貫き通した生き方は、私たち日本人の誇りであり学ぶべき点が多いと思います・・・

吉野は物語の最後で主人公の少年に、次のように語らせています。「僕は全ての人がお互いにより友達であるような、そういう世の中が来なければいけないと思います。人類は今まで進歩してきたのですから、きっと今にそういう世の中に行きつくだろうと思います。そして僕はそれに役立つような人間になりたいと思います。」

竹内校長は最後に、「今の自分は人のためになっているのだろうか。よりよい社会を作ることに役立っているのだろうか。独りよがりになっていないだろうか」と振り返りながら生きてほしいのです。それが私の考えるヒューマニズムですと述べられました。



開式の言葉



PTA会長 尾形康雄様のご祝辞



卒業生代表 永澤君の答辞

来賓を代表し、本校PTA会長 尾形康雄 様から卒業生に対するご祝辞を頂戴しました。その後、在校生代表の三浦さんの送辞に対し、卒業生代表の永澤大暉くんから三年間を振り返り、「クラスの友人との出来事や文化祭や体育祭、修学旅行の思い出、そして後輩や諸先生方への感謝の言葉を述べて頂きました。

<同窓会入会式>

卒業式前日の2月28日（金）、本校西キャンパスを会場に「同窓会入会式」が開催され、新たに卒業認定者379名が入会しました。当日は同窓会長の菊地忠夫様を始め、副会長の鈴木和雄様や小野久子様をお迎えし式は粛々と執り行われました。本年度の同窓会表彰受賞者は、陸上競技部の齋 大輝君（インターハイ円盤投げ7位入賞・全国高校選抜陸上大会6位入賞）とボート部の及川奈美さん・渡部瑠奈さん・千葉 環さん（全国選抜女子舵手付ワドルブル8位入賞）でした。また、同窓会からは卒業記念品として、卒業証書フォルダが贈呈されました。生徒を代表し永澤大暉君が入会の辞を述べました。



・・・卒業おめでとうございます！・・・

今年の冬は雪が少なく穏やかで、春の訪れも足早のようです。

本日ここに、本校PTA会長、尾形康雄様はじめ、多くのご来賓の方々、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、宮城県塩釜高等学校、第9回卒業証書授与式を挙げていただきますことは、学校にとって大きな喜びとするところであります。学校を代表して感謝申し上げます。

さて、卒業生諸君。一昨年、『君たちはどう生きるか』という本が漫画化され、ベストセラーになりました。マスコミなどでも大きく取り上げられたので、知っている人も多いと思います。中学二年生の少年が、様々な経験を積みながら、精神的に成長していく姿を描いた、児童向けの教養小説です。『いじめ』や『貧富の格差』など、今に通じる問題が盛り込まれていることもあり、多くの読者の共感を博しました。



この本が昭和12年に書かれたというのは、驚くべき事です。昭和12年といえば、その後8年に及んだ日本と中国の戦争が始まった年です。何事にも軍事色が強まり、思想や国民生活が厳しく統制されていた時代にあつて、この本は、子供達に『どう生きるか』を問い掛けました。著者の吉野源三郎は、昭和を代表する知識人で、岩波書店の月刊誌『世界』の初代編集長として知られています。彼の思想の根幹にあるものは、ヒューマニズムです。

ヒューマニズムとは、簡単に言えば人間中心の思想ということですが、国のために個人を犠牲にすることが求められた時代、ヒューマニズムを主張することは勇気の要ることだったと思います。ヒューマニズムは、中世基督教の不寛容と狂気に対して、ユマニストと呼ばれた人達が、『それはキリストと何の関係があるのか』と、問いかけたことから始まりました。それが、宗教改革やルネサンスといった、歴史の大きな流れを作ることになります。ヒューマニズム

研究の第一人者で東大教授だった渡辺一夫は、『キリスト』を『人間』と読み替え、『それは人間であることと何の関係があるのか』と、学生達に問い続けたそうです。やはり戦前の話です。吉野源三郎や渡辺一夫の、困難な中にあつても良心を貫き通した生き方は、私たち日本人の誇りだし、学ぶべき点が多いと思います。

『君たちはどう生きるか』は、山本有三が中心となって出版した、『日本少国民文庫』というシリーズの中に納められています。山本有三は、『路傍の石』や『真実一路』などの作品で知られる小説家ですが、暗い時代にあつても、子供達にヒューマニズムに根ざした真の教養を身につけさせたいという、熱い思いから、この文庫の編纂を志しました。彼の考えに共鳴してシリーズの編集・出版に力を尽くしたのが、吉野源三郎であり、『ノンちゃん雲に乗る』の作者、石井桃子です。

未来への希望は、常に若者の中にあります。第二次世界大戦前夜の、ほとんど絶望的な状況下においてもそうでした。吉野は、物語の最後で主人公の少年に、次のように語らせています。

僕は、すべての人がおたがいによい友だちであるような、そういう世の中が来なければいけないと思います。人類は今まで進歩してきたのですから、きっと今にそういう世の中に行きつくだろうと思います。そして僕は、それに役立つような人間になりたいと思います。

くだいようですが、昭和12年です。第二次世界大戦が始まる二年前という時に、吉野は、そのような未来を、青少年に託したのです。皆さんが生まれたのは西暦2000年から2001年、その21世紀最初の年に、アメリカで同時多発テロが起こりました。以来、残念なことに、今でも『憎しみの連鎖』は続いています。そういう時代の空気感も、『君たちはどう生きるか』がベストセラーになったことと、無関係ではないでしょう。

私は、ヒューマニズムが、これからいっそう大切になると考えています。

テクノロジーの進歩も生産性の向上も、それによって人々が幸福になるのであれば、意味がありません。『それは人間であることと何の関係があるのか』という問いが、私たちにとって、より重要なものになるでしょう。先に引用した、『全ての人が友人であるような世界』は、例えば、ベートーヴェンの第九交響曲で謳われているような理想郷です。それを青臭いと鼻で笑ったり、無理だと決めつけたりするのは、大人の分別ではなく、無責任と怠慢です。

私は何も、皆さんに、世界をリードする人材や、進歩的文化人になってほしいと、言っているわけではありません。ただ、今の自分は、人のためになっているだろうか、よりよい社会を作ることに関与しているだろうか、独りよがりになってはいないだろうか、振り返りながら生きていってほしいのです。それが、私の考えるヒューマニズムです。

一人でも多くの人が、そういう生き方をすることで、世界は少しずつ理想に近づいていくと、私は信じています。勿論、そのためには、真摯な努力が必要です。一生懸命働くこと、教養を身につけるための勉学を怠らないこと、他人への思いやりを持ち続けること、そして何より、未来を信じる勇気を失わないこと。

『日本少国民文庫』の中に、山本有三が翻訳した詩があります。チューザレ・フライシュレンという人の詩です。

心に太陽を持て、嵐が吹こうが、雪が降ろうが、天には雲、地には争いが絶えなかつた

心に太陽を持て、そうすりゃ何が来ようと平気じゃないか

どんな暗い日だって、それが明るくしてくれる

保護者の皆様に申し上げます。本日はまことにおめでとうございます。

卒業生には、ヒューマニズムについての、少し難しい話をいたしました。お子様方は、大きな時代の変革期に生を受け、これから、その荒波に向かって船出をしようとしています。人は、自分が生まれてくる時代や環境を選ぶことができません。それを『運命』という人も居れば、『不条理』と呼ぶ人も居ます。けれども、乗り越えられない試練や運命などないということを、私は、震災時の、東松島高校での体験から学びました。必要なものは、心の支え、特に家族の支えです。支えがあれば、人は困難に打ち克つ勇気を持てます。そして勇気があれば、大概のことは乗り越えられるものです。どうか、これからも、ご子息ご息女の心の支えで、あり続けてください。

「卒業生諸君。卒業おめでとう。」

「唇に歌を持て、勇気を失うな、心に太陽を持て」この言葉を餞に、式辞といたします。

平成30年度 卒業式フォトブック (写真提供：塩釜高校写真部)

